

第2学年道徳学習指導案

日時 平成18年11月22日(水) 5校時
児童 2年2組 男8名 女15名 計23名
指導者 西城 満

- 1 主題名 生きる喜び 【3 - (2) 生命尊重】
- 2 資料名 「ぼく」(出典 みんなとたのしく どうとく 2年 東京書籍)
- 3 主題設定の理由

(1) 児童について

児童は明るく活発で、外で遊ぶ子が多い。男女共に仲良く遊んだり協力して仕事をしたりする姿が見られる。日直や当番、係り活動では、一生懸命最後まであきらめることなく取り組める子が多い。その反面、力の強い子や自分の思いがはっきり言える子は、自分の思いが通らないときに、自己中心的な考えになり、口論やけんかになってしまうことがある。

自分の命の大切さについて児童は、あらためて考える機会は少なく、命がなくなると困るというぐらいの思いである。そこで、生きる喜びを考えさせ、命を大切にしようとする心情を育てるためにこの主題を設定した。

(2) 価値について

学習指導要領第2章、道徳の第1学年及び2学年の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(2)に「生きることを喜び、生命を大切にすることを。」とある。生命の大切さはどれだけ強調してもしすぎることはない。すべての道徳性は生命が大切にされてはじめて成り立つものである。

自己の生命を振り返ってみるときに、毎日の生活一つ一つを当たり前のこととやり過ごすのではなく、それを自らが生きている証であるということを見直すことが大切である。そして、そのことに生きている喜びや自分の存在を見出し、生命の大切さを自覚させることが大切であると考える。

(3) 資料について

本資料は、「ぼく」という男の子が自分の好きなものを教えてあげようという語りかけから始まる独白調の話である。「ぼく」の好きなものは、お父さんから始まってペットや友達、自然などいろいろあげられるが、一番好きなものは「ぼく」であるとしている。「ぼく」がいるから楽しい体験ができる。「ぼく」がいるからいろいろなものが好きになれるという話である。

この資料から生きているからいろいろな体験ができることをつかませ、生きる喜びや自分の存在を自覚させるうえでは適した資料である。

(4) 人権教育の観点から

人権理解にかかわって

生命尊重について、これまで命の大切さや重さ、命を守る方法等を道徳や学級活動の授業はもちろんのこと、ニュースで取り上げられているような事件や事故も取り上げ指導してきた。そのため、児童は、「命は一つしかなく、とても大切なもの」ということは分かっている。しかし、ニュースで取り上げられる事件や事故などは、他人事のように思っているところがある。普段の生活の中で、食べることや遊ぶことなど、生きていることがあたりまえのことだと思っており、改めて幸せなことだと考える機会が少ない。そこで、本授業では、生きる喜びや、楽しみを自覚させるために、「ぼく」という資料から日常の生活を振り返らせ、自分のいいところや好きなところを考え、自由に発表させることで、命を大切にすることを育てたい。

また、コミュニケーション能力を育成するために、展開後半にグループ学習を位置づける。グループ学習では、一人一人が自分の考えを堂々と発表できるようにし、発表者の考えのいいところを見つけ、進んで友達を認められるように育てたい。

育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって

資料の中の主人公に共感しやすくし自分の考えを出しやすくするために、紙芝居を使い資料提示をする。さらに、黒板に挿絵を貼り、視覚的にも考えやすくする。自ら考える場において学習プリントを何枚も用意しておくようにし、意欲的に自分のいいところや好きなところを考えさせることによって自分の価値を自覚させる。

「受容力」にかかわって

互いに認め合う場において、お互いのいいところを認め合うことにより、自分の存在価値を高めていくようにする。振り返りでは、いい意見や、がんばって発表した児童などをみんなでも認める場を設定し、本時のがんばりをみんなでも認め合うようにする。

「表現力・行動力」にかかわって

人と同じ考えでも、意欲的に発表させるために、グループ学習では、その場で特別にグループを作るのではなく、いつもの学習班を使い、全員が発表できるようにさせる。また、自分のいいところや好きなところを学習プリントに書かせることにより、それをもとに話し合いができるようにする。

(5) 指導にあたって

本時では自分の考えや思いを持たせるために、資料は紙芝居で提示し、資料の理解を助けるようにする。また黒板に挿絵を貼り、主人公の思いを視覚的に訴えていく。資料の中の「好きなものや好きなことがたくさんあるのに、なぜ「ぼく」は「ぼく」が一番好きなのですか」という発問には、「ぼくがいるから……」「ぼくがいないと……」というように児童に投げかけ、「ぼく」が一番好きという根拠を考えやすくし、それが生きている証なのだとすることを意識づけるようにする。展開の中の自ら考える場では学習プリントを多めに用意しておき、自分のいいところや好きなところを自由に出させるようにしていく。また、展開にグループ学習を位置づけ、みんなでも発表し合い、認め合う場を取り入れ、自分のいいところや自分の好きなところを十分に交流させ自分の存在価値を高めていくようにする。終末には、体験談や日頃の思いから生きる喜び、命の大切さを語りかけるような教師の説話をする。

このような手立てを取り、本時では、「自分のいいところ、好きなところ」に焦点を当て、自らが生きている証を自分自身で改めて考えさせ、その考えをみんなでも認め合うことにより、生きる喜びや、自分の存在を理解させる。また、児童の考えから「生きている」ことは人との関わり合いもあることにも触れ、すべての命を大切にしようとする心情を育てていく。

5 本時の指導

(1) 目標

生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 人権教育の観点から

生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てるために、本時では主人公「ぼく」の生きる喜びに共感させ、自分のいいところや好きなところを見つけ出し、みんなで認め合うことにより、自分の存在感に気づき、今後の生活の中で自分の存在を大切にさせるようにしたい。

また、コミュニケーション能力を高めるために、互いに認め合う場ではいつもの学習班を使い、自分のいいところや好きなところを全員が堂々と発表できるようにしたい。また、友達のいいところを見つけることにより、友だちのよさを見つける力をさらにつけていく

(3) 展開

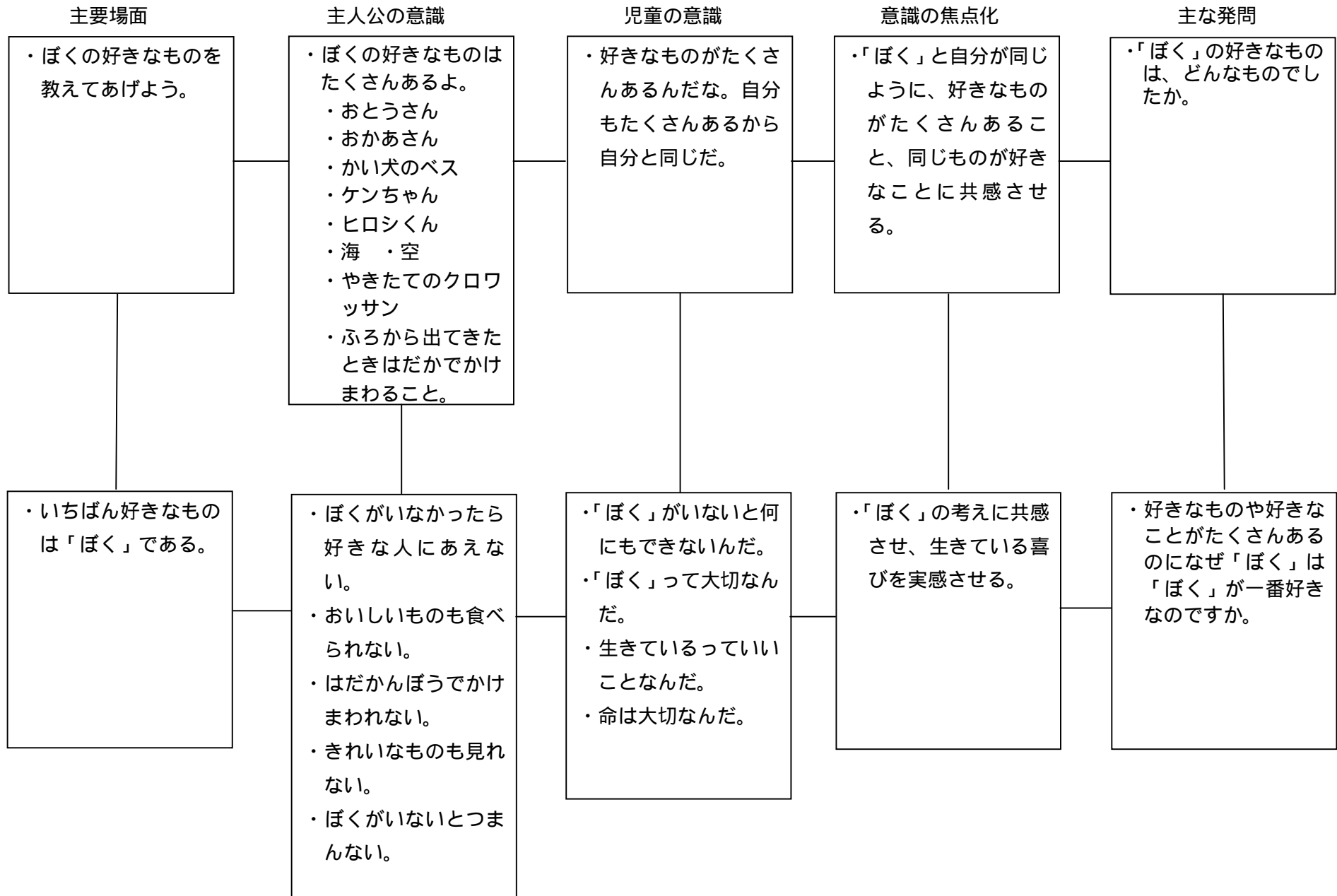
段階	学習活動と主な発問	予想される反応	評価()留意点・支援() 人権教育の観点()
導入 3分	1 自分の好きなことや好きなものを思い起こし、発表する。 (1) みんなの好きなことや、好きなものは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスクリーム ・カレー・ケーキ ・ドッジボール ・ゲーム・友達・家族 	資料についての方向付けをするので自由にたくさん話をさせるようにしたい。
展	2 「ぼく」を読んで話し合う。 (1) 「ぼく」の好きなものは、どんなものでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さん、お母さん、飼い犬のベス、妹のハルカ ・ケンちゃん、ヒロシ君 ・焼きたてのクロワッサン ・はだかんぼうでかけまわるの ・空、海 	<p>資料は紙芝居で提示し、視覚的にも児童の理解を助ける。挿絵を板書に使い児童の思考の手助けにする。 <思考力></p> <p>「ぼく」があげているものを全部取り上げることにする。</p>
	(2) 好きなものや好きなことがたくさんあるのに、なぜ「ぼく」は「ぼく」が一番好きなのですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがいるから好きなことができる。 ・ぼくがいるから、みんなに会える。 ・ぼくがいないとつままない。 ・ぼくが一番大切なんだ。 	<p>「ぼくがいるから」という言葉から、生きているからということにつなげていく。 <思考力></p>
開	3 自分のことを振り返り、生きている喜びについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自ら考える場</div> 自分のいいところや好きなところをプリントに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を残さず食べることが出来る。 ・誰とでも仲良くと遊べること。 ・おいしいものを食べられること。 ・お母さんの手伝いが出来る。 ・最後まであきらめずにがんばることが出来る。 ・いつも元気に遊んでいるところ。 	<p>資料最後にある「ところで、きみはなにがすき。」の文から自分自身へと視点を変えていくきっかけにし、生きている楽しさについての自分の考えを学習プリントに書かせる。 生活の中で生きていてよかったことを沢山考えさせる。 <思考力・判断力></p>

<p>37分</p>	<p style="text-align: center;">互いに認め合う場</p> <p>班で発表し合う。</p> <p>みんなで話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合われたことを発表する。 ・ みんなで友達のいいところを見つけ、自分の存在の大切さを確認する。 	<p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食を残さないところ ・ やさしいところ ・ お母さんの手伝いをするところ ・ いつも元気なところ ・ 学校を休まないところ ・ 友だちとサッカーをすること <p>認め合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食を残しているのを見たことがないと思うのすごいと思う。 ・ 私が転んだときに保健室に連れて行ってくれたのでやさしいと思う。 ・ いつも休み時間になると外で元気に遊んでいるので楽しそうでいいと思う。 ・ 自分のいいところは、お母さんの手伝いをするからです。友達からは、困っているときに助けに来てくれるところがいいところだと教えてもらった。 	<p>友だちのいいところを見つけた人はその場で教えてあげるようにさせる。</p> <p>グループ学習には十分時間を保障する。</p> <p>グループ活動で今の自分を素直に表現させ、みんなで見つけ、認めあうことができるようにする。</p> <p><表現力> <受容力></p> <p>自分の好きなおところやいいところを見つけ学習プリントに書けたか。</p> <p>友達の好きなおところやいいところを認めることができたか。</p> <p>認め合うことによって、自分の意見をはっきりと話すことができるようにする。また、みんなから認められることで、自分の存在を確認するようになる。</p> <p><表現力・行動力> <受容力></p> <p>他人とのかかわりがあることにも気づかせる。</p> <p>何人かの家族からの手紙も用意しておき、自分の大切な存在に気づかせる。</p>
<p>終末5分</p>	<p>4 生きることや、命の大切さについて教師の説話を聞く。</p> <p style="text-align: center;">学習を振り返る場</p> <p>5 振り返りをする。</p>		<p>体験談や日頃の思いなどから、自分の存在の大切さが、命を大切にすることだと、語りかけるようにする。</p> <p>今日の授業でいい意見を言った人や、がんばった人を発表し、みんなで認め合う。がんばったが発表されなかった子は教師のほうで誉める。</p> <p><受容力></p>

(4) 評価

生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情が育ったか。

4 資料の分析



ぼく

- ・おとうさん
- ・おかあさん
- ・かい犬のバス
- ・いもうとのハルカ
- ・ケンちゃん
- ・ヒロシくん
- ・やきたてのクロワッサン
- ・海
- ・空
- ・お風呂から出たときはだかでかけまわる

ぼくの絵

・ぼく

「ぼく」「は」「ぼく」「が」「いちばんすき」

- ・ぼくがいるから、好きなことができる。
- ・ぼくがいるから、みんなにあえる。
- ・ぼくがないとつまらない。

自分のいじわる、すきなとじわる

- ・好ききらいなくなんでもたべること。
- ・友だちとあそぶこと。
- ・ころんだときに友だちをたすけてあげた。
- ・お母さんのでつだいをすること。